

避難所運営を模擬体験

図面と「うらめし」時間も忘れて

博多あん・あん(安全)・あん(安心)リーダー一会は、今年度から会員相互の親睦と連携強化を図るため、広報・研修部会に加え交流部会を新設、毎月の定例会ごとにテーマを決めてスキル(技能)アップも試みています。7月9日の例会では避難所運営ゲーム(HUG)で知識を磨き合いました。会場はあすみん(中央区)、参加者は12名。このゲームは静岡県で開



HUGに熱中する参加者
(7月9日、あすみん)

発されたもので、恐怖と不安に慄く地域住民の避難生活についてできるだけスムーズに介助しようというものが発想の原点です。まず、ゲームの進め方を説明。読み手の読んだカード(避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカード)を、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にだけ適切に配置できるか、加えて避難所で起る様々な出来事

具体的には、災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りや炊き出し場や仮設トイレなどの確保、さらには行政、議会関係などの視察やマスコミ、研究者の取材対応といったケースについてもゲームの中で学ぶことができた。結局、時間が過ぎるの忘れてしまった熱中ぶりでした。今後、会として展開できそうな予感がします。

●避難所として公民館や小学校が指定されているが、身近な公民館で一度実施してみてもどうか
●カードではなく、われわれ会員が100名ぐらい参加して模擬避難者となり、どこかの地域で避難所体験をしてみたいのではなか
●避難所について考えるきっかけとなった。
【注】HUGは、避難所運営をみんなで考えるアプリの一種として静岡県で

交流部会 HUGで知識磨く

西新校区で防災セミナー

看護師長が災害体験を披露

早良区西新校区で「よみうり防災セミナー」(同校区自治協議会など主催)が開かれました。会場の福岡記念病院管理棟には地元の人たちや病院関係者、それに早良支部を中心に博多あん・あん(安全)・あん(安心)リーダー会の防災士約20名計80名が参加、校区自治協議会長を兼ねる自主防災・防犯協議会長の内田重光・防災士(同リーダー会員)の挨拶で始まりまし

まず、防災紙芝居「津波だー稲むらの火を消すな」の上演。南支部の堀田純子さんらによるもので、各地で防災意識の啓発活動を続けている防災士グループです。阪神大震災の記録映像「幸せ運ぼう」(読売テレビ等制作)をよみうり防災セミナー事務局で上映。人に優しい安全・安心のまちづくりを訴えました。

講師として招かれた中央消防署の森田浩章・予防課員は「安全・安心のまちの法則」と題して講話、「C・R」という言葉を使っ

「すぐに役立つ」ロープ結びも

最後は「暮らしに役立つロープ結び」を森田さんの指導で学習。本結び、巻き結び、S字結びなどについて、そのうち参加者同士互いに教え合いながら楽しく学びました。終わったあとのアンケートでは「一人では生きていけない」ことや「一日この近所付き合ひが災害の

時に役立つことを痛感した」「災害への知識、意識、さらには行動することの大切さを改めて学ぶことができた」などと好評でした。同校区では、秋にも防災運動会を開いて災害のない街づくりを一層進めることにしています。
(早良支部 山本 光男・防災士)



「ロープ結びはこうやって」
(読売新聞西部本社提供)



女性参加者も熱心にシーツを使っての脱出法を勉強(読売新聞西部本社提供)

城南支部でも勉強会

城南支部ではこのほど城南区別府公民館で初めて避難所運営ゲーム(HUG)を体験しました。最初の20分でゲームの進め方を説明。このあと1時間くらい読み手の読んだカード(避難者のリスト)を避難所に見立てた平面図にだけ適切に配置できるかがゲームの要。災害時要援護者への気配りをしながら部屋割りや炊き出し場や仮設トイレの配慮など生活空間



熱心に学ぶ支部員
(別府公民館で)

きかということに分かるようになる「避難所について考えるようになった。良い機会だった」などと話していました。
(城南支部 牧菌典浩・防災士)

マンション住民がDIGで防災学習

西区姪浜地区のマンション住民が、西支部の支援で「防災士と学ぶ防災訓練」(災害図上訓練)を中心に地震発生時の対応の仕方などについて勉強しました。主催したのはロイヤルマンション姪浜(14階建て、3世帯)野口 宗成・管理組合理事長で、防災士でもある野口理事長が支部の定例会でマンションでの防災訓練支援を申し出たのがきっかけです。

DIGは、メンファシリテータの竹尾副支部長が最初に気象に関する豆知識クイズを出題、正解の人へキャラメルを配るなど和やかな雰囲気作りを務めました。このあと①地震発生時にあなたはどこにいますか②避難時はどうしますか③というテーマを6班



訓練開始前に挨拶する野口理事長(姪浜公民館で)

水道連結型スプリンクラーを開発

水道防災協同組合(鹿毛勝昭理事長)は8月6日、市内のホテルで「特定施設・水道連結型スプリンクラー設備」の発表・披露会を開きました。博多あん・あんリーダー会の前代表幹事でもある鹿毛理事長を中心に水道水の家庭用バルブとの連結で可能なスプリンクラー設備の開発を研究、成功しました。従来は消防用水を使用していた貯水槽やポンプの必要もなく配管がシンプルのため、増設や管理も簡単といわれています。

シーツを使って脱出法学ぶ

文科省登山研の専門家が指導

身近にあるシーツで脱出する方法を学ぶ「よみうり防災セミナー」技術講座が7月26日夜、読売新聞西部本社よみうりプラザで開講。博多あん・あん(安全)・あん(安心)リーダー会の防災士やあん・あん塾生ら25名が参加しました。講師は、文科省登山研修所の中年安全登山指導者・竹下裕一さん。昭和57年(1982年)2月のホテルニュージャパン火災の際、シーツをロープ代わりにして

脱出した客の例を説明しながら指導しました。シーツで脱出した客は韓国で、徴兵制のある同国では国民が、こうしたサバイバル技術を身に付けているといわれます。

この夜の講座は、脱出用のロープがない場合の代用品としてシーツで作ろうというもの。参加者たちは熱心な表情で取り組み、実際のシーツを幾枚も組み合わせて作っていました。このほか、1枚のシーツとロープでテントを作る方法も学びました。

パワーポイント画像を使用せずに「対話型」で参加者との交流を図りながら進めました。防災クイズの後、地区別の地図上にそれぞれ自宅や道路、池、用水路などを記入する「図上訓練」を行い、地域の危険箇所を掲示や避難所までの経路など、今回の目的である防災看板設置のための希望箇所を書き込んだりしました。

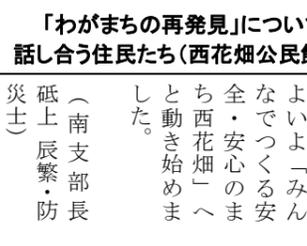
あなたのアイデアで「防災看板」設置へ

その中で、看板の役割についても「歩いている人からも、車に乗っている人からも見やすく」することが必要、とか「避難所まであと500m」といった人の気持ちの分かる温かい掲示文にすべき、などという意見も出ました。

「もしも---」に備え わが町再発見!

安全・安心のまちづくりの一つとして南区西花畑校区自治協議会、校区内の危険箇所や避難所などへの道筋を示す防災看板を各所に設置することを決めました。

よみうり防災セミナーが西花畑公民館で開催され、同校区自治協議会の呼びかけで役員、一般住民ら約60名が参加しました。これより先、西花畑校区自主防災会と博多あん・あん(安全)・あん(安心)リーダー会、防災セミナー事務局合同で、校区内の危険箇所を確認する「街歩き」を行い、セミナーには地区単位で班を編成、南支部長の砥上辰繁・防災士が司会役を務め、同支部の防災士8名が各班を担当しました。



「わがまちの再発見」について話し合う住民たち(西花畑公民館で)

(南支部長 砥上辰繁・防災士)